

第4回函館市行財政懇話会会議録

- 日 時 平成23年5月24日（火） 18:00～
■場 所 市役所8階 第1会議室
■出席委員 乳井委員（座長）、鎌田委員、高木委員、村上委員

【会議概要】

- 1 開 会
- 2 会議録の確認

座 長

それでは早速、会を進行していく。
まず、第3回懇話会の会議録の確認をしたい。
事務局から事前に会議録案が各委員のお手元に配布されていると思う
が、その内容について何か意見等があればご発言いただきたい。

～ 異議なし ～

それでは、異議がないようなので、これを第3回懇話会の会議録とし
たい。

- 3 第3回懇話会の議論をもとに整理した提言書（案）について

座 長

本日は、これまでの懇話会でみなさんと議論してきた内容に基づき「行
財政改革を推進するために」と「健全な財政運営のために」という2つ
の大きな柱に分類し、さらに、委員から出された意見をまとめた。

また、事前に事務局から各委員に説明した提言書について、委員から
意見をいただいたので、それらについて、事務局から説明してもらう。

事 務 局

（提言書（案）に対する委員からの意見について説明）

座 長

提言書（案）全体については読んでいると思うので、それぞれの項目
について、委員のみなさんと確認させていただく。

まず2ページの最初の部分について。

A委員

冒頭の「はじめに」と重複するので削除してもよいのではないかと。

B委員

読んだときには、とくに修正しなくてもいいかなと思った。冒頭の3
行を消してしまうと、主語がなくなり、唐突になるので、あまりにも省
略しているような気がする。

- 座 長 最初の3行は文章として残すことにするか。
- C 委員 4行目の文章が長すぎる気がする。
- B 委員 イメージとしては、「現に取り組んでいるけれども、財源不足を抱えている」ということを言ったらいいと思う。最初の3行は不要と思う。
- 座 長 「函館市においては、改革に取り組んでいるものの」という表現のほうがすっきりした表現になると思う。
- B 委員 喫緊の課題であることを念頭に、今後はそのイメージで提言するような流れでいきたい。
- 座 長 下から3行目について。
- C 委員 文章が長いのであれば、「喫緊の課題である。」と切った方がすっきりすると思う。
- B 委員 それに続く「懇話会～」の文章はそのまま生かしていいと考える。
- 座 長 では、まとめると、冒頭の3行は削除、その次の文章については、「函館市においては、改革に取り組んでいるものの、毎年～」と続ける。また、下から3行目については、「喫緊の課題である。」でいったん文章を切って、「懇話会として～」以降の文章はそのまま生かすということで、前段はよろしいか。
- (委員同意)
- 座 長 次は、I-1について。
- C 委員 「しっかり」としたという言葉が文中で2回くりかえされていて、ちょっと気になった。
- 座 長 「しっかり」という言葉は「将来を見据えた」に書き換える。続いて、括弧書きの文章が必要かどうかということ。
- B 委員 この文章の趣旨はあくまでも提言なので、具体的手段の構築という記載は不要であり、数値目標を設定するというところで、終えておいたほうがいいのではないか。みんな、同じような言葉を最後に記載しないといけなくなる。「しっかり」としたという箇所を書き換える程度でいいの

ではないか。

C 委員 2行目については「とどまっております」、ではなく、「とどまっている。」にした方がいいと思う。

座 長 2行目を「とどまっている。」と文章を切って、括弧書きは生かして、「～必要である。」で終わってよいか。

A 委員 「具体的手段を構築しなければならない」というのは、行政に解釈の余地がない。それに対して、「数値目標を設定することが必要である」ということは行政側に解釈の余地を与えることとなるので、そのあたりを意識して使い分けてみた。特に修正にこだわっているわけではない。

B 委員 「～何をどこまでやるのかといった数値目標を設定し、それを実行する具体的手段を構築しなければならない。」とするのはどうか。

(委員同意)

座 長 ではそのように修正することとする。続いて1-2について。

A 委員 懇話会とはそもそも市からの説明を受けることや意見交換を行う場であり、冒頭とも表現が重複していると思ったため、削除する提案をした。また、主語がない場合は、「考える」ではなく、「考えられる」という客観的表現が望ましいと思うし、私たちも論文を書くときには気をつけている。

後からも何か所か、「考える」という表現があるが、「考えられる」と書き換えた方がいいと思う。

B 委員 それは結構だと思う。

座 長 1行目はどうするか。

B 委員 「懇話会としては」にしてはどうか。

(委員同意)

C 委員 先ほどの「考える」の表現だが、客観的ということになると、懇話会の責任を感じなくなるが、いいのだろうか。

座 長 個人的な意見ではないので、客観的な表現の「考えられる」にしたほうがいいと思うがいかがか。

(委員同意)

3 ページ目, ほとんど事前には意見がなかったが, いかがか。

C 委員

Ⅱ-1 の下から 3 行目の「～必要になってくる」を「～必要である」と書き換えてはどうか。意味は通じるのだが, なんとなく, 今は必要でないが, これから必要になるというニュアンスが感じられる。あえて, 近未来のことにして書かなくてもいいのではないかと思う。

座 長

ストレートに「～必要である。」と表現し, 後に続く, 「これからは」も取ってしまうというのはいかがか。

特に表現がおかしくないのであれば, このように修正したい。

(委員同意)

では次のページのⅡ-4 について。

「しっかりと」を「明確に」に修正するのは前に修正したのと同様でいいと思われる。

B 委員

外部評価をしても, 最終的に市民が選択することになる。それを受け入れるという市民の結論もあるだろうし, 市民と一緒にそのことを考えないといけないということになると思う。だから, 最後に市民の立場として, 行政と一緒にどういう選択をするかが大切だと思うので, 下線の内容ではなく, 括弧書きの部分を生かしてはどうだろうか。

C 委員

最後の段落だけ, おまけで付いているみたいな感じがする。前の文章とのつながりがあまり感じられない。

B 委員

唐突という意見もわかるが, 私はあとがきにこの括弧書きの文章は必要だと思っている。

A 委員

外部評価は補助金に限ったことではないので, ここに括弧書きの文章があるのは違和感があると思う。

座 長

「～必要であると考える。」で切っしまい, 括弧の文章をおわりに入れてしまうのはいかがか。

A 委員

文章を少し修正して入れる必要がある。

座 長

次のページのおわりにの中に, 文章のスタイルを変えて入れ込むこと

を考えた場合に、どこに入れるか。

A 委員 終わりにの 2 つの段落の間に入れることでどうか。文章のつながり的にはいいと思うが。

「市と市民が一緒になって」というつながりにもなる。

C 委員 「終わりに」の真ん中の段落にすることには賛成だ。

座 長 どういう文章にするとよいか。

A 委員 「一方で、市民も函館市の行う事業の取捨選択の意義を認識し、特別の便益を享受する場合は、その目的や公益性などを説明することが求められる。」とするとどうか。

市民が共通して受けるサービスでなく、特定の対象に限ったサービスを受ける場合には、きちんと目的などを説明してください。という意味合いが表現できると思う。

座 長 この修正でいかがか。

C 委員 いいと思う。

座 長 今の文章を「おわりに」の真ん中の段落として挿入する。
これで提言書の修正を終えたいと思う。

いろいろ修正したが、修正した箇所については、各委員確認していただいた後、次の段取りにつなげていきたいと思う。

本当に、4 回もお忙しい中、ご参集いただき感謝する。

このような形にできたのは、みなさんのおかげだと思う。

総務部次長 修正部分については、座長と取りまとめ、後日各委員に確認させていただき、別の場面で座長から市長に手交させていただくこととする。
事務局を代表して総務部長からご挨拶させていただく。

(総務部長あいさつ)

〈閉 会〉